

第18回 気象教室

入場無料、事前申し込み不要

南極越冬隊員が語る

対象：中学生以上

南極から診た地球の環境

2019年**1月20**日（**日**）14:00～16:30（開場13:30）

福岡市科学館 6F サイエンスホール

（福岡市中央区六本松4丁目2-1）



国立極地研究所
及び総合研究大学院大学名誉教授
藤井 理行 氏



福岡大学教授 林 政彦 氏

講演のほか、南極に関する質問の時間や、南極では必須の防寒着、南極で活躍した無人飛行機、南極の石、そして太古の空気が詰まった南極の氷などに触れる時間も設ける予定です。

主催：（公益社団法人）日本気象学会九州支部
福岡管区气象台
（一般社団法人）日本気象予報士会西部支部
共催： 福岡市科学館

詳しくは裏面あるいは気象学会九州支部ホームページ(<http://msj-kyushu.jp/>) または[気象学会九州支部]で検索)をご覧ください。

福岡市科学館については科学館ホームページ(<https://www.fukuokacity-kagakukan.jp>) または「福岡市科学館」で検索)をご覧ください。

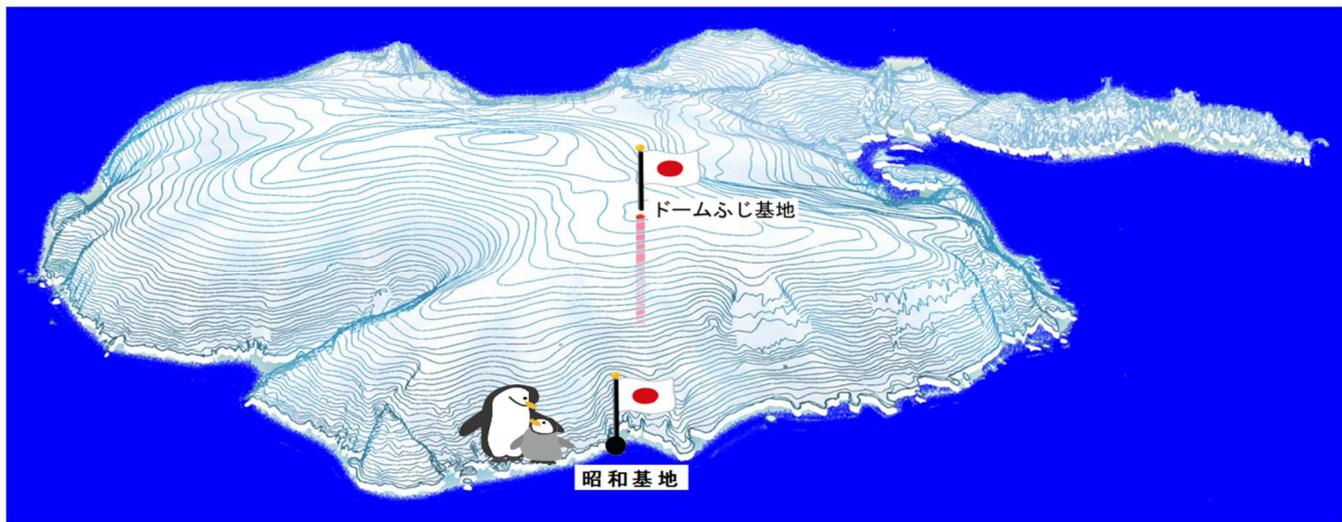
南極の氷に記録された地球規模の気候・環境変動

国立極地研究所及び総合研究大学院大学名誉教授 藤井 理行 氏

南極履歴書

氷の大陸、南極は、地球環境のタイムカプセルです。最低気温-79度を観測した極寒の南極ドームふじ基地での氷の掘削とともに、掘り出した氷の試料(アイスコア)の研究から明らかになった過去数十年から数十万年スケールの地球環境の変動を紹介します。また、明らかとなった古気候古環境から、温暖化が進む地球環境の将来を考えます。さらに、南極の自然やそこでの越冬生活などについても紹介します。

第18次隊	1976年11月～ 1978年3月	みずほ基地で初の通年越冬
英国南極観測隊	1981年11月～ 1982年2月	ハレー基地で氷床コア掘削(30mまで)
第25次隊	1983年11月～ 1985年3月	みずほ基地で氷床コア掘削(700mまで)
第32次隊	1990年11月～ 1992年3月	昭和基地で通年越冬(越冬隊長)
第37次隊	1995年11月～ 1997年3月	ドームふじ基地で氷床コア掘削(2503mまで)



第58次観測隊で見てきた南極温暖化と観測の今

福岡大学教授 林 政彦 氏

南極には各国の観測隊以外の人類は住んでいません。また、ほかの大陸などの陸地とも遠く離れています。このため、人間が様々な活動で排出する物質の直接的な影響を受けにくく、十分に混ざり合ったあとの地球大気を観測することができます。南極で二酸化炭素やエアロゾル(大気中の微粒子)などを測ることで、地球大気健康診断が可能なのです。今回は現在の南極でどのような観測が行われているのか、そして観測から得られた結果から診断される現在の地球大気健康状態について紹介します。

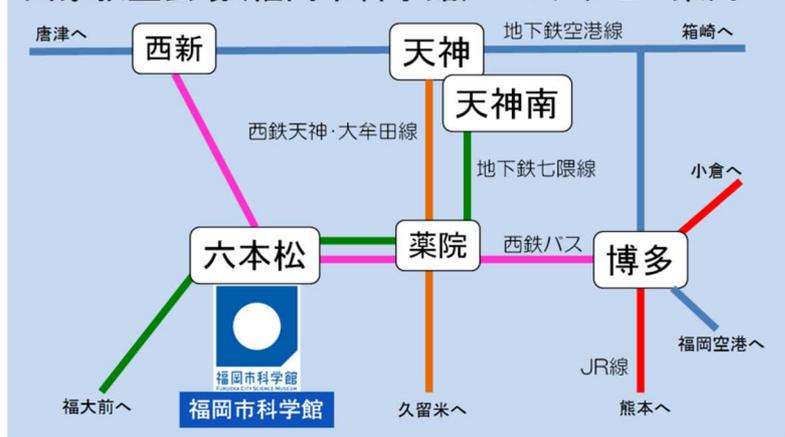
南極履歴書

第32次隊	1990年11月～ 1992年3月	昭和基地で越冬観測
第38次隊	1996年11月～ 1998年3月	ドームふじ観測拠点で越冬観測
第58次隊	2016年11月～ 2017年3月	(夏隊) S17航空拠点で無人航空機観測



福岡市科学館

気象教室会場(福岡市科学館)へのアクセス案内



会場には専用駐車場がありません。公共交通機関をご利用ください。